

木くぼり

樹木の不思議 39



No.
73

発行
'09-1月

株式会社 ナガイ内

住まい教室 金谷教室



← 関西の門松



→ 関東の門松



門松…古くは、木のこずえに神が宿ると考えられていたことから、門松は年神を家に迎え入れるための依代という意味合いがあります。地域の言い伝えにより松を使わない所もあります。

現在の門松は中心の竹が目立ちますが、その本体は名前でもわかるように松です。平安の貴族たちが好んだ小松引きという行事で持ち帰った「子の日の松」を長寿祈願のため愛好する習慣から変遷したものです。

地方により門松の様式に差があります。関西では3本組の竹を中心に、前面に葉牡丹（紅白）、後方に長めの若松を添え、下部を竹で巻きます。豪華になると梅老木や南天、熊笹やユズリハなどを添えます。

関東では、3本組の竹を中心に、周囲に短めの若松を配置し、下部をわらで巻くという形態が多いです。

竹の先端の形状は、斜めに切った「そぎ」と、真横に切った「寸胴（すんどう）」の2種類があります。「そぎ」は徳川家康が始めたもので、徳川家康の生運唯一の敗北として知られる「三方ヶ原の戦い」（1572年）のあと、対戦相手の武田信玄に対して、次は斬るぞという念を込めたのが始まりという俗説があります。実際は武家が昔ながらの寸胴、庶民がそこから発展させた派手な「そぎ」を好んだのが基らしいです。

【門松は冥途の旅の一里塚 めでたくもありめでたくもなし】の和歌は、一休の作とされていますが、一休と親交のあった遊女、地獄太夫が一休のために読んだものとの説もあります。

参考資料：インターネット フリー百科事典ウィキペディア

ホーミー住まい教室に来てみませんか？

教室の時間は約3時間です。テキスト・ビデオを使って教室講師と楽しく勉強してまいります。一切の強制、強要はありません。お気軽においでくださいませ。

要予約 TEL (0547) 45-3501

ホームページ <http://www.e-house.co.jp/nagai/>

e-mail kk-nagai@po2.across.or.jp (メールでの予約もOK！です。)



静岡新聞 記事 生活彩々 より

昔に比べ、家の中に物が随分増えた。ベッドにピアノにソファ、テーブル、パソコン…。どれも現代の生活に欠かせない物かもしれない。でも、それらが家の中を狭くし、住み心地を悪くしていると思う。部屋に物がありすぎて、ほこりがたまり、気持ち良く暮らせなくなっている。

一体、住宅の真の住み心地とは何だろう？

たとえば日当たりや風通し。これらは「住みやすさ」の上で、とても重要な要素だ。東京の下町のような住宅密集地で、何も考えずに図面を引けば、隣が迫って薄暗く、空気よどんだ家になってしまう。

「使いやすさ」もはずせない。建築雑誌の写真のように美しいけれど、洗濯物を干す場所がなく、物をきちんとしまう場所もなく、片付けに追われるような家では困る。日常の家事雑事をスムーズにこなせるかどうかは、家の住み心地を大きく左右する。

住み手とともに家は必ず年を取る。その年の取り方が、ただ古くなるのではなく、美しく味わい深くなるような素材を使っておくのも意外と大切だ。それこそが、住み手の家への愛情をはぐくむことにつながるから。最後に一番大切なことは「人が似合う家」であること。主役はあくまでもそこに住む人たち。家は住人が健やかで充実した日々を過ごすための、「幸福のための道具」でなければならない。

去る11月23日、辰っあんこと、富田辰雄会主をお招きして講演会を開催しました。今後住宅建築のご予定のある方をはじめ、建築に携わる方や、既に住宅を建築された方も講演を聴いてくださり大変感謝しております。

「再度、聴講して良かったです。改めて住宅環境の重要性を感じています。」と感想を頂きました。

ご出席下さった皆様方、誠にありがとうございました。



(講演会後の忘年会も和気あいあいと楽しい時間を過ごして頂きました。)

(株)ナガイ 島田市牛尾510-2 TEL (0547) 45-3501